

各 位

上場会社名 株式会社 鳥羽洋行
 代表者 取締役社長 三浦 直行
 (コード番号 7472)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 松永 健一
 (TEL 03-3944-4031)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,400	170	190	100	19.61
今回発表予想(B)	4,500	△210	△180	△210	△41.18
増減額(B-A)	△2,900	△380	△370	△310	
増減率(%)	△39.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	11,976	867	931	556	107.17

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,000	500	550	300	58.82
今回発表予想(B)	10,500	△250	△200	△250	△49.02
増減額(B-A)	△5,500	△750	△750	△550	
増減率(%)	△34.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	19,489	1,025	1,130	643	125.05

修正の理由

当社は、制御機器、FA機器、産業機器を主力に取り扱う機械工具販売の専門商社であります。販売商品の主力は、半導体製造装置、デジタル家電、及び自動車・車載部品等の民生品を中心とした製造業界の設備投資向け部材及び装置等です。期初の業績予想の設定にあたっては、それらの販売先の需要動向並びに経済全体の動向等を勘案して計画を組み立てています。5月の決算発表段階での第2四半期累計期間(上期)の業績予想数字につきましても、前年同期比38.2%減という過去に例のない厳しい予想設定を行いました。

しかしながら、昨年発生した世界金融危機に続く世界同時不況の影響で、個人消費の低迷が続いており、主要販売先における設備投資の需要は日を増すごとに減少し、期初に計画されていた設備投資ですら中止または延期になるような状況が現在も続いております。このような情勢に対する政府の総合経済対策で、定額給付金やエコカー減税、エコポイント制度の導入等の政策が打ち出されて、エコカーや省エネ家電等の需要は拡大しておりますが、現状では新規の設備投資需要に至るまでの効果となっております。

当社といたしましては、このような状況を想定し、新規の販売先の開拓並びに既存の得意先の深耕等の販売促進策を推進するとともに、経費につきましても役員報酬一部カット等の人件費削減や、配送費、消耗品等の大幅削減を行っておりますが、売上減少の速度があまりに速すぎたため、大幅な減収減益状況となりました。

第1四半期の主要取扱品目別の販売状況における制御機器は、前年同四半期比63.3%減、FA機器は前年同四半期比65.5%減、産業機器は前年同四半期比59.7%減となるなど、総じて大幅に低迷する結果となりました。

現在の経営環境下では、第2四半期累計期間での業績の急激な回復が見込みにくい状況であり、売上高におきましては前回予想額を2,900百万円減の4,500百万円となる見通しであります。利益につきましては、売上高の減少に伴い営業損失210百万円、経常損失180百万円、四半期純損失210百万円となる見込みです。

通期の業績予想につきましても、政府の総合経済対策の効果が表われ、景気の好転が期待されるものの、設備投資の回復には相当の時間を要するものと想定されます。当社といたしましては、一層の経費削減対策を講ずるとともに、新規分野への販売促進策の成果が一日でも早く現れるよう取り組んでまいります。主たる販売先であります半導体製造装置、デジタル家電、自動車・車載部品等の業界における設備投資の状況から判断し、通期売上高は10,500百万円、営業損失250百万円、経常損失200百万円、当期純損失は250百万円と見込んでおります。

(注)上記の業績の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により記載の予想数値とは異なる可能性があります。

以上